

# 国立六大学連携による新たな国際連携モデルの構築



## ◆アライアンス間交流の推進

日本では各大学独自の大学対大学の国際交流が主流

【課題】 海外の大学に対して規模が小さく  
交流できる分野が限定的

【解決策】 世界で主流となっている**連合間の国際交流**

### ①教育研究力向上を目指した世界トップクラスの大学との交流

EU

ライデン・デルフト・エラスムス  
戦略アライアンス (蘭)

エラスムス・ムンドゥス  
パートナーシッププログラム  
(英、独、仏、西 等のEU全土)

### ②日本語・日本文化の研究交流、学生交流

東欧

ルーマニア、ハンガリー、ポーランド等  
日本語・文化研究コミュニティ

### ③ASEANの人材育成を目指した学生交流

ASEAN

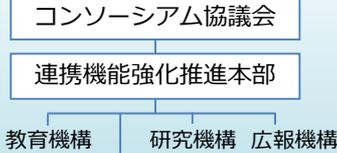
ASEAN大学ネットワーク (AUN)

各大学のネットワークを活用し、日本側からの  
提案では初めてとなる**アライアンス間の交流**

【成果】 規模の拡大による領域の拡大、多様性向上

**相手方の要望する分野に適した学生交流・研究交流の実現**  
各地域の中核的教育・研究機関である六大学の国際交流の  
底上げ = **日本の国際交流の底上げ**

## 国立六大学連携コンソーシアム



## 国立六大学国際連携機構

強みをもつ6つの総合大学の連携  
全体の学生数：約7万人 (2014.5.1現在)



### 【国際共同事務所】

5箇所設置・共用化

スタッフ (各1名) を配置  
留学フェア等の共同実施  
⇒リソースの共有による  
効率的な運営を図る

### ※留学コーディネーター

配置事業 (実施中)  
ミャンマーの事務所  
に留学コーディネーター  
を配置。留学生の獲得  
を目指す。

オールジャパンでの  
グローバル人材育成

他国への展開も目指す

## ◆日本・ミャンマー産学人材育成コンソーシアム設立

【背景】 ミャンマー：急成長中のアジア最後のフロンティア。  
人材を巡る世界的競合

留学コーディネーター配置事業 (H26年度～)

留学生獲得を目的として、留学コーディネーターを配置。

【課題】 卒業生が日本企業に定着しない、企業に対応できない

【解決策】

日本・ミャンマー産学人材育成  
コンソーシアム (仮称)

大学

+国内7大学 他

事務局を担当  
コーディネーターの配置や  
組織の立ち上げ

連携

日本留学情報センター  
(在ヤンゴン)



資金、人材、ネットワー  
クイタナップの場の提供

将来的に、日本・ミャンマーの政府等も巻き込んだ組織へ

## 産業界

世界との競争に資する  
グローバル人材の要望

日本主要企業12社  
地域企業

日本経団連、商工会議所、  
経済同友会等

ミャンマー現地企業

### ①教育・インターンシップ連携：企業と連携したプログラムの開発・実施

- ・日本企業の文化、ノウハウ等の教育プログラム
- ・日本企業、現地日本法人等でのインターンシッププログラム

### ②就職支援：企業と就職希望留学生のマッチングシステム構築

### ③経済支援：公的資金+民間資金を活用した奨学金制度構築

【成果】 大学で日本企業に共通する知識・経験を教育し、日本企業・日本企業の現地法人・  
現地企業等に送り込む**留学生の取り込みから送り出しまでの育成モデル構築**

国立六大学国際連携機構の規模、各大学のネットワークを活用した事業展開

⇒ **世界トップレベル大学との交流、積極的な留学生育成**

**産業界と本格的に協働したグローバル人材育成事業の展開**

各地域の中核校として国際交流向上 = 日本全体の国際交流向上

これまでになかったアライアンス間交流、人材育成での国際連携モデルの構築

## 学生・学術交流の推進による教育研究力の向上

企業で活躍できる優秀な留学生の育成

⇒ 親日的な留学生の育成による**日本と諸外国の産業的・  
学術的な強固なネットワークの構築**  
教育を通じたインフラ整備